
孫家の美尻の弟

たろう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孫家の美尻の弟

【Nコード】

N9973Z

【作者名】

たろう

【あらすじ】

大学生を送っていた矢先、乗っていたバスが事故に遭い、転生。生まれ変わった先は、蓮華の妹！？

プロローグ（前書き）

初投稿なんだな

プロローグ

s i d e . ? ? ? ?

「蓮!れ—————ん!」

もう、どこにいっちゃたんだろう。さっきまで鬼ごっこをしていたのに急に居なくなっちゃった。

まったく、蓮はすぐこうやっていなくなる。いっしょに遊んでいた思春と明命も蓮が居なくなって寂しそうだ。

「(仕方ないなあ、わたしはお姉ちゃんだからねっ!見つけてあげなくちゃ!)」

s i d e . 蓮

(眠い……)

俺は木の陰に寝転びながらウトウトしていた。

5歳児の俺にとっては睡魔に抗うというのは、不可能に近い。

(……zzzz)

そしてついに睡魔に負けた。

side・思春

さつきまで、遊んでいた蓮様が急に居なくなつたため、蓮華様と明命と一緒に探しているのだが、一向に見つからない。

「もっつ！蓮ったらどこにいったのよ！」

「れ、蓮華さま、落ち着いてください・・・」

蓮華様がついに怒つた。わたしはどうにかして蓮華様を落ち着かせようとする。

というか明命は、なにをしているんだ。手伝ってくれてもいいじゃないか。

「おねこしゃま・・・」

・・・ダメだ。

ておくれだ。

「もー！どこななのよー！」

いったいわたしにどうしろというんだ・・・

蓮様、早く帰ってきてください・・・

side・蓮

夢を見ている。
生まれる前の夢だ。

俺は大学生だった。

大学生といつてもそれほど頭のいい所ではなく、そこそこの中堅私立大学。

しかも、運良くセンター試験で高得点を出せたために入ることができたくらいである。

ていうか、センターの現代文楽すぎじゃね？がっばり稼がせていたきました。

まあ、数学はやばかったけど・・・

閑話休題

大学生活も8ヶ月ほど過ぎ、実家へ帰省しようとして夜行バスに乗った。

1時間程過ぎ、ウトウトし始めた頃

突然の衝撃と共に

完全に意識が落ちた。

死んだと思ったか！？俺もだよ！

ていうか、ほんとに死んだしね。

いやー、本当にびくつりしたー。

いきなりくるんだもん、そりゃあ驚くよ。

今も絶賛驚き中。だって……

気づいたら、赤ん坊になってんだぜ？

なんだよこりゃ・・・

何か目の前に、すごい美人さんがいるし。桃色の髪に褐色の肌。・・・あれ？どっかで見たことあるような・・・

「おっ！見る、雪蓮！目を開けたぞ！」

「可愛いー！冥林、すごい可愛いわよ！」

「そ、そうだな・・・」

あれ・・・？この人たち・・・

「オギヤーーーーー」

うるさっ！誰だよ、隣でいきなり・・・

・・・首が曲がらない！

そりゃそうだよね、赤ん坊だもんね。

「あー、ゴメンね蓮華。うるさかったでしょ、よしよし」

美人な女性が、隣で泣いていた赤ん坊を抱き上げる。

ん？蓮華って・・・

えっ？まさかここって・・・

「あうあー（恋姫十無双！？）」

「あー！みつけたー！」

ん？

うん・・・夢か、懐かしいな・・・。

「もー！なんで急に居なくなったの？」

「ゴメンゴメン。急に眠くなっちゃてさ」

「むー！」

「れ、蓮華様落ち着いてください」

「思春もご苦労様」

「そ、そうおもつなら途中でいなくなったりしないでくださいよ・・・」

「おねごしまー）＊、＊（」

今日も孫呉はカオスである。

ブローグ（後書き）

誤字脱字がありましたら言ってください。直します。

アドバイス等がありましたら言ってください。参考にします。

感想がありましたら言ってください。喜びます。

第1話 『鍛練開始かぁ・・・二トがいいです』 (前書き)

内政とか書きません。たぶん。
だって政治とかわからないもの。

第1話『鍛練開始かぁ・・・二トがいいです』

side・蓮

どうも、俺です。

本日をもって6歳になりましたー。

しかし、前世も入れると20代中盤に入っているという罫。

でも、周りにはちよつと言動が大人びている6歳程度にしか思われ
ていない。

つーか、テンション高すぎだろ子供たちよ。

だから、いつものメンバーとしか遊ばないよ。いつめんというやつ
だな。

大学時代はいなかったからなあ・・・。

あれ？どうしてだろう、目から水が溢れてくるよ・・・。

やっぱ、第一印象って大事だね。

俺なんか、高校時代にはいつめんはいたんだけど、その心づもりの
まま大学行ったらあのざまだよ。

同じ学科に友達がほとんどいなかったよ。

サークルでめっちゃ仲いいやつもほかの学科だったし・・・

閑話休題

6歳になったということで、我が麗しのお母様から、

「あなたも蓮華も6歳になったんだから、た・ん・れ・ん、始めま
しょうね（はあと）」

お母様・・・その年でそれはきついつて。

というか、蓮華がやる気満々ウーマンなんですけど。
あ、思春と明命も一緒に修行するみたいね。

side・祭

今日からあの子らが鍛錬を開始するらしい。
というか、儂が監督をする。
堅殿はやらのか？と聞いたら

「私はもう現役引退したから」

らしい。

いや、儂と同じ年じゃろが・・・。

まあいいじゃろ。

重要なのはどのような鍛錬をさせるか・・・。

ところ変わって、鍛錬場

「さて、これからお主等は鍛錬を開始することになる。
まずは、基礎体力を鍛えることから始めるぞ。
まずは、この鍛錬場を10週じゃ。」

「アハハ、大変そうねー（笑）」

「策殿。あなたは50週じゃ」

「へアッ!? (。°。111)」

side・三人称

「それでは、位置について・・・始め！」

一斉に走り始める蓮たち。

先頭は蓮華。それに続いて蓮、思春、明命である。

明らかに蓮華が飛ばしすぎている。

5週目を過ぎたあたりから、明らかに息が乱れてきているようだった。

それにひきかえ蓮は、余裕とまでは言い難いが、しっかりとしたりずムで走っている。

それにやや遅れて、思春と明命。

そしてついに10週目。

7週目あたりで蓮に抜かされた蓮華は、今や思春や明命より後ろを位置を走っている。

「ラストスパートオオオオ！」

「ハア・・・ハア・・・」

「ま・・・負けませんっ・・・」

「・・・・・・・・・・」

一着は蓮。それに続いて、明命、思春、蓮華である。

「最高に『ハイ』ってやつだア！」

side・祭

蓮様が一着か……。

途中や最後に言っていたことは意味がわからなかったが。

「今日からはこれを毎日鍛練の前に行うぞ。

さあ、へばっているでない！次は腕立て伏せじゃ！」

皆6歳程だというのに、新兵よりも早く終えよった……
これは将来が楽しみじゃな。

side・雪蓮

「（；、）（ゼハ……ゼハ……）」

「余計なことを言うからこつなるのよ」

「う……つるさいわよ……冥林……」

第1話 『鍛練開始かあ・・・二トがいいです』 (後書き)

ちなみに大学の話は実体験です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9973z/>

孫家の美尻の弟

2011年12月31日01時48分発行